

# 小論文の極意

Copyright (C) sho-ronbun.com  
All Rights Reserved  
including the right of reproduction  
<http://www.sho-ronbun.com>

## もくじ

はじめに	・・・	4
1. 小論文と作文の違い	・・・	5
2. 論理	・・・	5
3. 論理を表現する技術	・・・	6
4. 小論文における段落構成	・・・	7
5. 小論文の細かい技術	・・・	8
6. 実際に小論文を書くときに注意すること	・・・	9
7. 普段の生活の中でやっておくべきこと	・・・	9
8. 具体的な小論文の書き方	・・・	10
① 全体像と時間配分	・・・	10
② 制限時間と文字数	・・・	10
③ 小論文の型	・・・	12
④ 答案マップ	・・・	13
⑤ 答案マップと原稿用紙のイメージを重ね合わせる	・・・	16
⑥ イメージを原稿用紙に「写す」とは	・・・	16
⑦ 細かい日本語の修正・確認	・・・	16
⑧ 原稿用紙全体の整形	・・・	17
⑨ 小論文で最も大切なこと（まとめ）	・・・	17

## はじめに

本冊子は、専門学校・短大・大学入試を基本として就職試験等も含めた小論文作成を目的としたものです。この冊子で小論文の極意を学び、添削講座で訓練していくことで私たちは「論理的」な文章を書くことができるようになります。論理的な文章を書くことができることで文章を論理的に読むこともできるようになります。

例えば大学入試の3大科目である英語、国語、数学はすべて「論理」を基盤とする科目ですので、この小論文講座を勉強することにより、英語や国語や数学での得点アップも望むことができます。一般的にこれらの科目の学習には莫大な時間を必要としますが、この小論文はいくつかのポイントを押さえるだけです。少ない時間で大きく得点力が身につきます。少ない時間で効率よく、小論文の得点のみならず英語や国語や数学の得点アップにもつながっていくわけですから、小論文の勉強は大学入試突破に大きな効果があるものといえます。

にもかかわらず、一般的には小論文の勉強に重きを置かないために、あまり詳しく学習する機会がありませんし間違った指導により様々な誤解が生じていると思われます。

そこで、本冊子で小論文の本質を学び、小論文というものを正しく確実に学習していただくことで、少ない時間で大きな効果を得ていきます。さらに添削講座で訓練をし、他の受験生があまり学習しない小論文をしっかりとマスターすることによって、論理的思考力を身につけ、小論文だけでなく他の分野も含めた全体的な思考能力アップを目指していきましょう。

## 1. 小論文と作文の違い

一般的に学校で小論文を学習しないために起こる最大の誤解は、小論文と作文をほぼ同じものとして捉えられてしまっているということです。

**作文**とは、あるテーマに関して自分や自分の周りで起こったことを自由に語るもので、**言いたいことを自由気ままに書き並べるもの**とでも言えるでしょう。

しかし、それに対して**小論文**とは、ある事柄に関して論理を使って自分の意見が正しいということを読者に納得させ証明していくもので、**自分の主張を論理で説明するもの**とでも言えるでしょう。

読み手を納得させ、証明していくには作文のように自由気ままに語るわけにはいきません。「論理」を用いて読み手を納得させていく必要があるのです。この「論理」がいかにか大切なことかということについては後述していきます。

まずは小論文と作文が大きく違うということを頭に置いておきましょう。

## 2. 論理

論理とは「**議論や思考を進める道筋・論法**」のことです。

例えば、子供が親に新しいパソコンをねだるとします。ただただ「欲しい欲しい」とねだり続けることで買ってもらえるというのはなかなか難しいでしょう。

しかし、その新しいパソコンを買った場合と今の古いパソコンを使った場合とを対比して、新しいパソコンがいかに優秀で経済的・内容的にどれだけたくさんのメリットがあり、今の古いパソコンが新しいパソコンと比べてどれだけ劣っていてデメリットが多いのかを順を追って説明したならば、前者より新しいパソコンを買ってもらえる確率が遥かに上がるといえるでしょう。また、自分がどれだけ新しいパソコンを必要としているのか、新しいパソコンを購入することでどれだけ自分の勉強や研究に有効であるのか、などを説明することでさらにその確率は上がるでしょう。

つまり、**自分の意見、主張があり、それを聞き手に理解してもらいたい時、自分の主張と反対の主張とを対比させたり論拠を並べたりすることによって、いかに自分の主張が優れていて正しいのかを証明していくことで、説得力ある説明ができる**というわけです。

したがって、小論文においても、小論文はあくまで「論文」ですので、読み手を説得していくためにこのような「論理」を使って自分の主張を説明していく必要があるのです。いかにわかりやすく、いかに相手に納得してもらえるかということが大切だといえます。つまり、結論の部分よりもむしろその**結論に至るまでの過程をいかに表現するのかが重要だ**といえるのです。

### 3. 論理を表現する技術

**論理展開**というのはどのようなものなのでしょうか。

例として、 $x^2 - 5x + 6 = 0$ という方程式を解く場合を考えます。

解答用紙

$$\begin{aligned}x^2 - 5x + 6 &= 0 \\x &= 2, 3\end{aligned}$$

確かにこの答えは正しいですし、真実ではあります。

しかし、方程式をそれまでにたくさん解いてこの問題に対する答えを暗記してしまっているような人にとっては当たり前の事実かもしれませんが、一般的には、急に $x = 2, 3$ と言われても何がなんだかわからなくなります。これは**論理的に飛躍してしまっている**からです。

つまり、なぜ $x = 2, 3$ という結論に至るのかを順に説明していかなければなりません。それが論理というものなのです。その論理はきちんと解答用紙に表現する必要があります。

したがって、正しい解答としては、

解答用紙

$$\begin{aligned}x^2 - 5x + 6 &= 0 \\(x - 2)(x - 3) &= 0 \\x - 2 = 0, x - 3 &= 0 \\x &= 2, 3\end{aligned}$$

とすべきだと言えます。この途中の2つの式というのが、論理の展開です。すなわち、**無理のない正しい論理展開**というのは、**論理的飛躍がない**ということなのです。

小論文試験では、読み手というのは専門家であることが多いはずですから、前者の解答用紙のような答え方でも読み手はもちろん理解できるはずですが、

しかし、小論文試験というのは、どのように論理展開を表現できるのかが大切なので、前者のように解答すると、「**論理的に飛躍している＝論理というものがわかっていない**」と試験官に誤解されて得点を失ってしまうかもしれません。したがって、後者のようにしつこすぎるぐらいに論理を展開していった方がいいでしょう。

ただし、問題によっては文字制限があったりしますから、文字制限などがある場合には、例でいう「 $x - 2 = 0, x - 3 = 0$ 」の部分をはずすというように、論理の飛躍が極力ないような工夫をする必要があります。

つまり、極端に言えば、主張部分が一般的には好ましくないとと思われるような内容であったとしても、その結論に至るまでの**論理展開がしっかりしていれば、小論文としては満点**というわけです。

例えば「戦争は必要かどうかについて論じなさい」という課題が出題されたとします。もちろんみなさんは「戦争はよくないことである。」という答えが当たり前であって、その結論に向けてどのように論理展開しようかと考えるでしょう。戦争は多くの尊い命を犠牲にする、戦争をやっても何の解決にもならない、というような様々な論拠や例示、対比などを使って論理展開していくでしょう。

しかし、別に「戦争大賛成」という常識外れと一般に思われるような主張であったとしても、戦争をすることで戦争をしなかった場合の死者数よりも少ない死者数で抑えることができる、悪を根絶してその地に平和をもたらすためには戦争をした方がよい、などというように戦争賛成という結論に至るまでの論理を展開していければ、**結論が一般的には非常識とも思われるようなものであったとしても小論文の試験ではなんら問題はない**わけです。

つまり、例え主張部分が一般的に好ましくない事であっても、**論理展開がしっかりしていれば小論文としては問題がない**ということなのです。自分の主張、あるいは自分が書きやすい主張をもとに、読み手に納得してもらえようなしっかりした論理展開をすることが最も大切だということを念頭において文章を書いていくようにしましょう。

## 4. 小論文における段落構成

このように論理を展開していくには次のような段落構成が望ましいといえるでしょう。

### <第1段落> **仮説（自分の主張）の提示**

自分の主張をシンプルに書く

### <第2段落> **論理展開**

**対比**や**例示**など、**論理**を使って読み手を納得させる文章を書く

### <第3段落> **結論**

第2段落の論理展開をもとにした自分の主張を**まとめる**

（第1段落と同じ内容になるが、文自体は第1段落とは別のものにする）

この枠の中で自分の知識を総動員して論理を展開していけば、説得力のある素晴らしい論文が書けるはずですよ。

## 5. 小論文の細かい技術

これまで述べてきたように、小論文を書いていけば、おのずと試験では高得点を獲得することが出来るはずですが、試験官もやはり人間ですので、汚い字で書いたり読みにくい文章にすると、どれだけ論理展開がしっかりしていてもつつい減点してしまいがちになってしまいます。そこで、**無駄な失点をする可能性を排除するためにも**、読み手にとって読みやすくなるような文章を書く細かい技術について少し考えていきましょう。

- (1) まずは出来る限り**読みやすい字で書く**必要があります。これは決してきれいな字ということではありません。字が汚い人はそれだけでどうしようもないというわけではありません。きれいな字と読みやすい字は別のものであるのです。
- (2) 次に、語尾表現についてですが、基本的に、「**だ、である**」の表現か、「**です・ます**」の表現か、**どちらかに統一**する必要があります。小論文の場合「です・ます」の表現は、一方では丁寧で柔らかい印象を与えますが、他方ではまどろっこしくしつこい感じがしてしまいます。論理展開を重要視する小論文においては、このようなまどろっこしい表現は好ましくないといえます。

したがって、**小論文を書く上では「だ・である」の表現に統一するのが望ましい**といえるでしょう。ただ、この表現を用いたとき、「だ」や「である」を使いすぎると少し高飛車な印象を読み手に与えてしまいがちなので注意が必要です。自分の主張など、強く述べるときは必ず、「だ」「である」とい表現が必要ですが、その他では使いすぎないように気をつけましょう。

- (3) また、小論文において「**思う**」という表現をよく使われているのを見かけますが、この表現を使いすぎると**弱い主張に見える**だけでなく、**主張に対する無責任さ**を読み手に与えてしまいます。このようなあいまいな表現を使ってしまうとせっかくそれまで論理的に説明してきたことがすべて台無しになりかねないので、このような表現は極力使わない方がいいでしょう。

このような語尾表現も論理展開に必要な技術ですので、小論文を書く上でとても大切なことだといえます。

## 6. 実際に小論文を書くときに注意すること

試験が始まるとすぐに文章を書き始める受験生がいますが、そのような受験生はたいてい不合格になっているといっても言い過ぎではないでしょう。なぜなら、このような人達は**段落構成**や**論理展開**について何も考えずにいわば作文のように自由きままに文章を書き始めているからです。

本来、小論文を書いていくときは、まず始めの5分から10分は**段落構成**や**論理展開**について、頭の中でもしくは問題用紙の余白部分で考えていく必要があります。骨組みをしっかりさせた上で、制限時間や制限文字数の関係で、対比や例示の部分の量を減らしたり増やしたりすることを考えていくわけです。この**5分から10分が合否を分ける勝負**といってもいいでしょう。この時間を大切にしましょう。

そして、制限時間の終了10分前位からは**細かい漢字や送り仮名などの確認**の時間に割り当てるようにしましょう。どれだけしっかりした論理展開をしていたとしても、漢字や送り仮名の間違いがある場合、試験官は減点せざるを得ません。自信のない漢字や送り仮名が出てきた場合、それと同じような意味を持つ別の言葉に代えて表現するようにして、**くだらない減点をされない**ようにしましょう。

## 7. 普段の生活の中でやっておくべきこと

しっかりした論理展開をしていくためには、対比や例示のような**論理テクニック**をしっかりと使えなければなりません。このような論理テクニックを使うためには、自分の主張とは反対の主張や、自分の主張の論拠となるような分かりやすい例などを考えておく必要があります。

つまり、新聞やテレビのニュースなどで、自分の主張に近いものだけでなく、**様々な種類の知識を吸収**しておかなければなりません。

そのような普段の生活での意識が小論文をスムーズに書かせてくれる助けになるのです。それぞれのニュース等に対して自分の意見をしっかりと持ち、その論理を意識しながら生活するようにしましょう。そのように毎日を過ごしていると、自然に論理的思考力が身についてきて、試験の時にどのような課題が出題されても簡単に答えていくことができるようになります。

## 8. 具体的な小論文の書き方

### 1 全体像と時間配分

前述通り、小論文試験での合否を分けるのは試験開始後10分～15分です。「始め!」と同時に書き始めたらその時点で勝負は決まっているといえます。この10分～15分で合否の90%は決まります。この短い時間を大切に使いましょう。

まずは以下の全体像を見て下さい。作業内容(赤字部分)については後述しますのでここでは全体をつかむようにして下さい。この時間配分は常に意識しましょう。

0分～15分	<ul style="list-style-type: none"><li>① 制限時間と文字数を確認する。</li><li>② 問題を見て、どの型の問題かを判断する。</li><li>③ 解答用紙の余白に答案マップを作成する。</li><li>④ 答案マップと原稿用紙のイメージを重ね合わせる。</li></ul>
↓	
15分～終了10分前	<ul style="list-style-type: none"><li>⑤ イメージを原稿用紙に写す。</li></ul>
↓	
終了10分前	<ul style="list-style-type: none"><li>⑥ 漢字や句読点等、細かい日本語の修正・確認をする。</li><li>⑦ 原稿用紙全体の整形をする。</li></ul>

### 2 制限時間と文字数

試験によって、制限時間と文字数は変わってきますし、何より記述する人によって文字を書くスピードが違いますから、みなさんそれぞれの試験の制限時間と文字数、そしてそれぞれの記述スピードによって時間配分が変わってきます。

私の経験上、開始後15分経過後～終了10分前までの「書く」という作業時間中、基本的に400字の場合には約20分、600字の場合には約30分、800字の場合には約40分を必要とします。つまり1分あたりで換算すると20文字ですので、3秒に1文字ということになります。普通に考えて1文字に3秒もかからないだろう、と感じるかもしれませんが、前述通り、みなさんの全力の丁寧な読みやすい字を書かなくてはなりませんので、実際は3秒で1文字というの厳しいくらいの数値なのです。この数値は最低でもクリアできるようにスピードの訓練もある程度必要です。

したがって、当日制限時間と文字数を見て、それぞれの場合に応じて急いだり慎重に書いたりしなければなりません。

400字	$15 + 20 + 10 = 45分$ ⇒ 45分未満の制限時間の場合は通常より急がなければならない。 制限時間が45分の場合は通常通り作業する。 45分以上の制限時間の場合は通常よりゆとりを持って熟考する。
600字	$15 + 30 + 10 = 55分$ ⇒ 55分未満の制限時間の場合は通常より急がなければならない。 制限時間が55分の場合は通常通り作業する。 55分以上の制限時間の場合は通常よりゆとりを持って熟考する。
800字	$15 + 40 + 10 = 65分$ ⇒ 65分未満の制限時間の場合は通常より急がなければならない。 制限時間が65分の場合は通常通り作業する。 65分以上の制限時間の場合は通常よりゆとりを持って熟考する。
1000字	$15 + 50 + 10 = 75分$ ⇒ 75分未満の制限時間の場合は通常より急がなければならない。 制限時間が75分の場合は通常通り作業する。 75分以上の制限時間の場合は通常よりゆとりを持って熟考する。
1200字	$15 + 60 + 10 = 85分$ ⇒ 85分未満の制限時間の場合は通常より急がなければならない。 制限時間が85分の場合は通常通り作業する。 85分以上の制限時間の場合は通常よりゆとりを持って熟考する。

もし、通常よりも急がなければならない場合でも、最初の15分と最後の10分を減らすことはできませんので、その間の「書く」作業時間の短縮が必要です。

逆に、通常よりもゆとりを持って熟考できる場合は、最初の15分でやるべきことが合格のために大切なわけですから、この部分の時間を増やしていくべきです。「書く」という作業や確認の作業は増やす必要はありません。

### 3 小論文の型

小論文試験の型は大きく分けて以下の4つに分かれるといえるでしょう。

#### (1) 用語1語型（例：「家族について論評しなさい」）

与えられた用語に対する自分の主張を記述していきます。この例の場合、「家族」についてですから、核家族と拡大家族という**対立するもの**を思い浮かべ、自分の反対する側のメリットを述べて**反対意見の主張も理解している**ということを**アピール**した上で、さらに**それを上回る賛成する側のメリットを述べて自分の意見の正当性を論理展開**していきます。この型が最もオーソドックスな基本的な型といえるでしょう。

#### (2) 用語2語型（例：「核家族と拡大家族について論評しなさい」）

この型の場合は(1)の**対立関係を自分で思い浮かべる必要もなく**、提示された対立する2つの事項について、自分の反対する側のメリットを述べて反対意見の主張も理解しているということをアピールした上で、さらにそれを上回る賛成する側のメリットを述べて自分の意見の正当性を論理展開していきます。この型は論理展開していくヒントが与えられているといえるので、(1)の型よりも少し楽だといえるでしょう。

#### (3) 疑問文型（例：「あなたにとって家族とは何ですか、論評しなさい」）

この型の場合は、設問が疑問文なのでその**質問に明確に答える**必要があります。したがって、第1段落の第1文には**賛成なのか反対なのか**、もしくは疑問詞のある疑問文である場合は**ストレートな返答**を記述しなければなりません。ただ、これ以降については、(1)の型とほぼ同じですから、(1)のような論理展開を進めていけばよいでしょう。第1文だけは注意が必要です。

#### (4) 長文・グラフ・図の読解型（主題を読み取って論評する）

この型の場合は、まずは**長文、グラフ、図の中から「主題」を読み取ってそれについて論評**していきます。どの課題文・グラフ・図にもその筆者の主題が隠されており、それについての自分自身の意見を展開していきます。**読解力と論理展開力の両方を検査**されているというわけです。しかし、読解ができたとすればその「主題」というのは例えば「家族の大切さ」等というようなことですから結局は(1)の型と変わらないということになります。この(4)の型が最も難関かとは思いますが、小論文を書いていく上では(1)となんら変わりはありません。

このように見ていくと、小論文試験の型は以上の4つに分けられるといえそうですが、しかし**結局は(1)の型に集約**してしまいうので、(1)をしっかり書けるようにする訓練をしていけばどの型で出題されても合格答案は書けるということです。1つ1つの事項についてじっくりと筋の通った自分の考えを固めることこそが大切だといえます。

## 4 答案マップ

一般的な小論文添削では、漢字の間違いや日本語の細かい間違いなどを指摘するというような細かい点を指摘するだけのものが多いように思われます。しかし、小論文どっとこむでは、もちろんそのような細かい点も大切ではありますが、**実際に試験官が最も重視する「論理展開」をしっかりと勉強することこそが大切**だと考えています。

また、様々な勉強をしなければならない受験生にとって、小論文を1テーマでもきっちりと書くというのは多大な労力と時間を要してしまい、決して効率的だとは言えません。

そこで小論文.com では、「**論理展開**」こそをとことん鍛えるため、**小論文.com オリジナルの「答案マップ」**というものを作成して頂きます。

この答案マップというのは、以下のようなものです。

主題 \_\_\_\_\_

<意見・主張>

<自分が反対する側のメリット> (確かに～だが…)

- ①  
but⇒
- ②  
but⇒
- ③  
but⇒

<自分が賛成する側のメリット> (しかし、～だ)

- ①
- ②
- ③

<結論> (したがって、～だ)

まず、**主題**の部分には前述の4つの型のどの型に関係なく、論述するテーマを書きます。例でいうと「家族」ということになります。

次に、**<意見・主張>**の部分には、**できるだけシンプルな自分の主張**を述べます。本番の原稿用紙に書く第1段落に当たる部分です。この部分は自分の主張をする大切な部分ですので、基本的にはメモでもかまわないのですが、時間があれば細かい文言も含めてきっちりと記述していきます。

ここからが原稿用紙の第2段落にあたる論理展開です。まずは**<自分が反対する側のメリット>**の部分ですが、ここには**自分の意見とは反対の意見を記述**していきます。自分の意見とは反対の意見なのですからこの部分は不要なのではないかと思われがちですが、この部分もとても重要です。これは、自分の主張ばかりを展開するのではなく、**反対論も理解した上でそれでもなお自分の意見の方が正当だということを客観的に証明していく方が説得力のある論理的な文章になる**ためです。様々な知識があることをアピールし、物事の2つの側面を理解し、論理的に考察した上で自分の意見を主張するという事は試験官への大きなアピールになりますし、さらに、反対論を記述することで自分の意見が相対的に一層正当に見えるということにもなります。したがって、この反対論の記述はとても重要だといえます。そしてそこまでの展開から**<自分が賛成する側のメリット>**を述べていきます。これで**説得力のある論理展開**ができるというわけです。この、**<自分が反対する側のメリット>**と**<自分が賛成する側のメリット>**の部分ですが、ここに関しては、必ず細かい文章の記述はせずに答案マップにあるように論拠等だけをまとめたものをメモします。そのメモさえあれば細かく文章をつなげる日本語はわたしたちが日本人で日本語を話す以上深く考えなくても書けるため、この答案マップにはメモだけを書いていきます。

最後に、**<結論>**の部分ですが、ここには、**以上の論理展開をふまえた自分の主張を記述**します。この答案マップでは、第1段落のように、基本的にはメモでもかまわないのですが、時間があれば細かい文言も含めてきっちりと記述していきます。

このようにして、**余計な時間を使わずに勉強**することで、新たな知識を吸収したりする時間や、他の科目の勉強をしたりする時間を確保して**効率よく合格**できるようにしていきます。この考え方こそが一般的に見られる小論文添削とは異なるものだといえます。細かい日本語も重要ですがそれよりも**論理展開の考え方の方がはるかに重要**だということです。この答案マップをすばやく作成することで、**細かい文章を記述せずに時間を節約し、様々な事柄に関して頭を使って「考える」という作業によりたくさんの時間を費やす方が合格への近道になる**といえるでしょう。そのようにして知識を増やしていけばさらに論述もスムーズになっていき好循環になります。その域まで達したならばもう合格答案は簡単に書けるようになっているはずです。

例を挙げて答案マップを書いてみます。あくまで例ですので自分のやりやすい方法で書いていくようにして下さい。

<意見・主張>

幸福 = 心の豊かさ

<自分が反対する側のメリット> (確かに～だが…)

- ① お金があれば好きなものが買える  
but ⇒ 苦勞なしに好きなものを手に入れて充足感が得られるだろうか
- ② お金があれば楽に生活できる  
but ⇒ 楽 = 幸福と言えるのだろうか

<自分が賛成する側のメリット> (しかし、～だ)

お金より大切なもの  
= 家族、恋人、友人、・・・  
← お金では買えないもの  
⇒ これらの充実 = 心の豊かさ

<結論> (したがって、～だ)

幸福 = お金より大切なものの充実 = 心の充実

## 5 答案マップと原稿用紙のイメージを重ね合わせる

④で作成した**答案マップ**を原稿用紙に日本語の文章になるように**変換**して書いていきます。このとき、字数制限がなければわたしたちは日本語に関しては前述通り容易に書けるはずなのですが、小論文試験では字数制限があるために日本語を書きすぎると制限をオーバーしてしまいます。そこでわたしたちは答案マップで作成したメモを元に、**だいたい何行目あたりにどのような内容を記述するのかをあらかじめ答案マップと原稿用紙を照らし合わせて頭の中で「イメージ」を膨らませます。**なかなかこのイメージを膨らませるのが難しいという人は、原稿用紙の上の余白に、だいたいこのあたりの行にはどのようなことを書こう、というようなメモをするのもよいでしょう。

## 6 イメージを原稿用紙に「写す」とは

この⑤でイメージしたものを原稿用紙に日本語の文章として、いわば**イメージを「写していく」という作業**をしていくわけです。途中で文章が足りなかったり多すぎたりする部分もあるでしょうが、それは次に書く部分で調整します。最初に決めたイメージは絶対に守らなければならないものではありません。自分が書きやすい内容や書きにくい内容のいかんによって文章の多い少ないは調整していけばよいのです。**自分の知識をアピールするわけですから、不得意な部分は少なめに、得意な部分は多めに書いた方がよい**でしょう。

この部分は単純作業ですので、④の答案マップがしっかりしていればそれほどたいしたことではありません。

## 7 細かい日本語の修正・確認

これまで、小論文試験においては「**論理展開**」こそが**重要**だと言ってきましたが、もちろん**細かい日本語も減点材料にはなってしまいます**ので、無駄な減点を抑えるためにもこのチェックは必要です。**漢字や送り仮名、助詞の使い方**など、チェックする項目はたくさんあります。特に漢字はみなさんよく間違えてしまうようですから注意しましょう。もし**自信のない漢字が出てきたら、その漢字と近い意味の別の自信がある漢字を使うことで減点をなくしていく**、というのも必要でしょう。くだらない減点は極力少なくして、**論理力**で他の受験生と勝負しましょう。**論理力で勝負したなら他の受験生には負けない**でしょう。

## 8 原稿用紙全体の整形

最後にまとめとして、やはり試験官も人間ですから、**まとまった文章や読みやすい字の文章の方がついつい文章に入り込んでしまいます**。ですから逆に、消しゴムで消した跡が汚く残ったままだったり、殴り書きのような字で書いてあったりすると、許容範囲内のミスでもついつい減点してしまうかもしれません。そのようななくならない減点をなくすためにも、最後に原稿用紙全体の整形をしておくべきでしょう。

また、**5**のイメージを重ね合わせるときに、原稿用紙にメモを残した人はここでしっかりそのメモを消しておきましょう。

## 9 小論文で最も大切なこと（まとめ）

これまで何度も述べてきたように、**小論文で最も大切なことは、細かい日本語の問題ではなく、論理展開だといえます**。もちろん細かい日本語も大切ではありますが、論理展開がしっかりできていないとどれだけ漢字等に間違いがなかったとしても合格答案には到底なりえません。多少漢字間違い等で減点があったとしても、論理展開ができていれば不合格になることはないでしょう。したがって、**細かい日本語の勉強に多くの時間を費やすよりも、論理的思考力を身につける方が大切**です。同じ時間を費やすならば、色々な議題に対して答案マップのメモをたくさん作って自分の知識をどんどん増やしていく方が、漢字の勉強をするよりもはるかに合格に近づくといえるでしょう。そしてこの勉強は「勉強するぞ!」と意気込まなくても、普段の何気ない生活の中から議題を見つけて答案マップを頭で作成していただくでかなりの勉強になっていきますから、頭を動かすということを少しだけでも意識するだけで大きく飛躍していきます。さらにその議題について、家族や友人と話し合ったりすればさらに反対意見や賛成意見、それらに対する論拠も見えてきますから、何倍も勉強になります。普段の何気ない生活の中でも勉強になっていきますから、意識して物事を考える習慣をつけるようにしましょう。